

HUG

NEWS & LETTER Vol.3

平成 23 年度センターご利用状況

(2 月末日現在)

登録団体数 114 団体

会議室利用件数(延べ) 1,170 件

利用人数(延べ) 14,849 名

目次

1. 行列のできるチラシの作り方講座
2. NPO って何だろう? / 万里一空
3. 地域ではぐくむ子どもたち
4. News from V.I.C

「行列のできるチラシの作り方」講座開催！

平成 23 年 11 月 16 日(水)、第 2 回ボランティア養成講座「行列のできるチラシの作り方」講座を開催しました。定員が 30 名でしたが、予想を上回る、多数の方からお申込みをいただきました。

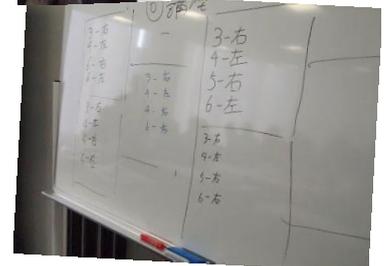
最初に「どのようにして良い企画を作るか」を、理論を交えて具体的に説明していただき、続いて、グループに分かれ、「直感クイズ」に臨みました。このクイズは、チラシの情報から、集客の状況をグループで話し合っって予想するというものです。この話し合いを通して、「新たな「つながり」が出来たのではないのでしょうか。

クイズの解説の後は、すぐにチラシ作成で活用できるパソコンの技術などを分かりやすく説明していただきました。先生の卓越した技術に、会場からは驚きの声が上がっていました。

講座の終了後、会場に展示されたチラシを熱心にチェックされる方や、残って先生に質問をする方もおられるなど、皆さんの熱心さが強く印象に残った一日となりました。



講師の吉田清彦氏。市民活動への熱い思いが印象的でした



「直感クイズ」では、各グループで熱心な話し合いが行われました

参加者の方より

自分もチラシを作るので、気になっていることが理解できた。何を考えればよいのか、チラシを作る基本の大事な点がよくわかった。チラシの見出しが思ったより大きく、人の目につくことが大切であるということもよくわかった。



会場に展示されたチラシ(一部)



受講される皆さんの様子

これまで「こちらから伝えたい」というキャッチコピーばかり作っていた。こちらが伝えたいものとターゲットが反応するものとの違いを改めて実感できた。また、身近にいるいろいろなヒントがあるということは新しい発見であった。

今から17年前の1995年、阪神・淡路大震災では数多くのボランティアが現地で自発的に活動し、多くの課題に積極的に取り組むことで、「公共」の担い手の一つとして、存在を広く知られるようになりました。そのことがきっかけでボランティアに対する理解が深まり、1998年には特定非営利活動促進法（NPO法）が制定され、「NPO」という言葉が一般に注目されるようになりました。

そして、2011年3月11日に起こった東日本大震災で再びNPOやボランティアに注目が集まっています。多くのNPOやボランティアが様々な形で現地のニーズに応えようとする姿は記憶に新しいのではないのでしょうか。

その一方で、NPOについて「どういったことをしているの?」「私たちの生活とどう関わっているの?」など、詳しいことを知らない人も多いかもしれません。そもそも、「NPO」とはどういった存在なのでしょう? 「NPO」とは「Non Profit Organization」の略で、「非営利組織」や「営利を

目的としない民間組織」などと訳されます。つまり、利益拡大ではなく、世の中が抱える課題を解決するという「志」の実現を目的とした組織ということになります。そのため、活動の収益は次の活動へと向けられることになり、営利追求を目的とする「企業」とは性質を異にしている点が特徴の一つであるといえます。

また、NPOの他の特徴として、「自発性」が挙げられます。自己責任という前提はありますが、目の前の課題について自発的な意思で取り組むことができます。つまり様々なニーズに対して迅速に、また柔軟に対応できるということです。

NPOの活動は、私たちの身近なところに広がっています。例えば、社会福祉の分野やまちづくりの分野、また、環境保全など、多種多様な分野で日々活動しています。本年4月のNPO法の改正で新たに活動分野が増えたことにより、今後ともこれまでにない新たな活動が広がっていくのではないのでしょうか。

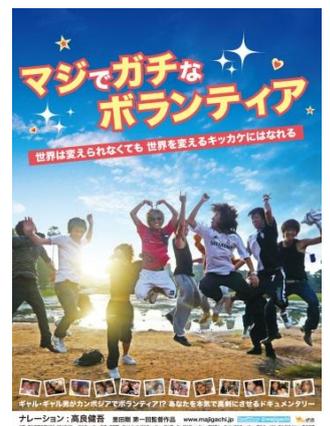
このコーナーでは今後、様々な場面で活躍するNPOの姿をお届けしていきたいと思ひます。

万里一空 第3回

映画「マジでガチなボランティア」 に見るボランティアな精神

ボランティアコーディネーター 松山恵美子

この映画は、第4回出版甲子園のグランプリも受賞した同名の本の著者であり、映画の主人公である石松宏章さんとその仲間たちが仲間の離散や事業の失敗を乗り越えてカンボジアに小学校と病院を建てるまでの3年間の奮闘ぶりを撮ったドキュメンタリー映画です。監督は何と奈良県出身の里田剛さん！監督の「いまだきの若者が、どうしてボランティアを行うのか?」の答え探しの中から、若者の姿が見えてきます。一番胸を打たれたのは、主人公が自分に対してとても正直であることでした。完成した小学校を訪れるところから映画は始まるのですが、バスの到着が遅れて、何時間も待っていた子どもたちの大歓迎を受けて、主人公が「ヤバイ、ヤバイ」と言うところなどは、



ほほえましい限りです。様々な困難に遭遇したり、気持ちが薄れていく危機感をもつたりした時には現地を訪れるスタディツアーを敢行し、原点に立ち返って自分の気持ちを見つめ直す誠実さが夢の実現を可能にしたのだと思います。自分の気持ちに正直であること、誠実であることが相手に対しても誠実であるということに気づかされま

す。若者が自分自身の根っここの対話を失わず、手ごたえや意味のあることをしたいという内的な動機に突き動かされ、仲間と一緒にマジ(本気)でガチ(真剣)にボランティアをする姿にすがすがしさを感しました。私自身が取り組んでいる、子どもへの暴力防止のNPO活動を、そういう視点で振り返る機会となりました。

地域ではぐくむ子どもたち

学校支援活動の取組例

〓富雄中学校区地域教育協議会に学ぶ〓

今号は富雄中学校と地域のボランティアをつなぐ、地域コーディネーターの上城戸さん、新谷さん、加藤さん、山上さんの4人にお話を伺いました。

【富雄中学校区の子ども達の様子や校区の特徴についてお聞かせください】

新谷：歴史が古い校区ですが、大阪のベッドタウンというイメージで、保護者が教育熱心で通塾する子が多いです。そんな都市型の地域性のため、近所付き合いなどに希薄さを感じられます。

上城戸：反面、地域に根付いた方々を中心に、子どもたちにつながる里を感じてもらおうと、地域の子ども達への安全活動や夏祭りを実施し、学校に協力し活動されてこられました。



なごやかな雰囲気
で会話もはずみまし
た

左から加藤さん、山上さん、上城戸さん、新谷さん



「花咲きロード」の活動で、ボランティアの方から植え方を教えてもらう生徒たち



文部科学大臣表彰受賞

【ボランティアの募集や内容はどのようにされたのでしょうか】

新谷：3年前から広報し本格的に募集を始めました。放課後をメインにおこなう生徒への「学習支援」、「部活動指導」、ベルマークを含む「環境整備」、クラブ活動を保護者が見守る「部活動巡回」の4点です。学校がボランティアの方々に求める支援内容を、はっきり示してくださったので、ピンポイントで募集することができました。これらの活動は現在でもボランティア活動の軸となり、別の活動に広がりつつあります。焦点を絞り募集したのが良かったと思います。

【活動をすすめるのに、難しかった点は】

山上：当初はコーディネーターの存在が理解されず、先生方にはPTA役員と思われていましたね。(笑)

加藤：保護者でもあるので、先生方には「何故保護者が職員室にいるの?」と思われるかもしれません。校長先生も「学校だより」などで広報してくださり、今では教職員から「いつもありがとうございます。」の言葉をいただき、嬉しいです。

【学校と地域(ボランティア)がつながり、富雄中学校区はどう変化しましたか】

山上：地域ボランティアの方々が「子どもたちのために」と言って花壇の水やりをするためだけに朝夕来て下さることなど、とても嬉しいですね。

職場体験先をコーディネーターが発掘したのですが、八百屋さんが「自分も卒業生だから、いつでも協力するよ。来年も再来年もおいで。」と学校を支えてくださるのがありがたいです。

新谷：「ボランティア意見交換会」というのを必ず学期末に行い、ボランティアの方々の意見を反映するようにしています。

「子どもたちの顔を見るのが楽しい」とか「こんな良い子たちを指導してくださる先生に感謝」と話すボランティアの方々の顔が生き生きしているので、この活動が学校のためだけでなく地域の方の生きがいにもなっている、地域と学校を繋いでいると実感しています。

【今後の目標や将来は】

加藤：今年学校側から「ゲストティーチャーに学ぶ」の前授業コマをコーディネーターに任せてもらいました。「コーディネーターさんに任せて安心や」と思っていただけのようなゲストティーチャーを地域の中から探していければ良いと思っています。

上城戸：最終目標ですが、子どもたちのなかで「富雄郷土クラブ」というようなものをつくりたいと思います。富雄で育ち、富雄を愛し、故郷だと思っ強い気持ちを持つてほしいです。子どもたち自身も地域に貢献するようなクラブです。



News from V.I.C

「ボランティア活動先一覧」 好評配布中！

当センターでは、ボランティア活動の募集情報を集約した「ボランティア活動先一覧」を、奈良市ボランティアセンターと共同で作成しています。およそ 30 件の募集情報を、活動分野ごとに分けて掲載しています。



一覧は当センターをはじめ、奈良市ボランティアセンターや奈良市内の大学、専門学校の一部に設置しています。

今後、追加情報があれば随時更新して参ります。また、各団体のボランティア募集情報も掲載できますので、お気軽にご相談ください。

いくつかの活動の中から自分の関心のあるボランティアを選んだり、新しいボランティア募集情報を知りたい人などには特におすすめの一冊です。ぜひご利用ください。



ボランティアの映画を 上映しています。



当センターでは、土曜日の午後、ボランティアをはじめ、福祉、高齢者、健康、生涯学習、環境、国際社会、災害対策などのテーマで、映画の上映会(ビデオや16mmフィルム)を行っています。参加費は無料で、申込は不要ですので、いつでも気軽にご覧いただけます。

タイトルや詳しい上映日時などは「しみんだより」や奈良市ホームページ、センターに設置しているチラシをご覧ください、電話や窓口でお問い合わせください。

【あしがき】

4月1日で、当センターもオープン1周年です。市民の皆様をはじめとする多くの方にご利用いただけましたことは、職員一同大変嬉しく、またありがたいことであると思えます。

今後とも、皆様がより利用しやすいセンターをめざして、職員一同頑張っておりますので、よろしくお願いたします。

センター利用のご案内

団体登録、ロッカー・メールボックス利用申請のご案内です。
「しみんだより」3月号もご覧下さい。

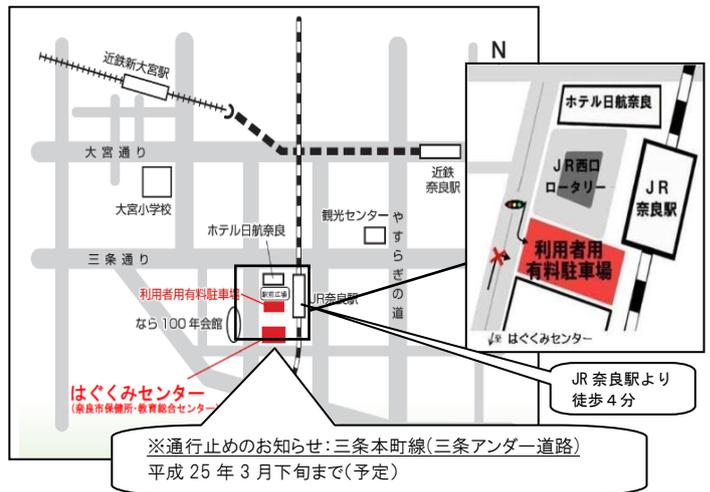


当センターでは、平成24年度以降に会議室や大小ロッカー及びメールボックスをご利用いただくための「団体登録」を受け付けています。登録できるのは、奈良市内を中心に活動する市民公益活動団体です。

併せて、平成24年度ロッカー・メールボックスの利用申請を受け付けます。今回利用が可能な期間は、平成24年4月1日から平成25年3月31日までで、利用申請には団体登録が必要となります。空き状況により、ご希望に添えない場合がございます。詳しくは当センター窓口までお尋ねください。

(団体登録、利用申請ともに窓口での受け付けのみになります。)

センターへのアクセス



※通行止めのお知らせ: 三条本町線(三条アンダー道路)
平成 25 年 3 月下旬まで(予定)

ご連絡・お問い合わせは・・・

〒 630-8122

奈良市三条本町 13 番 1 号

はぐくみセンター(奈良市保健所・教育総合センター)1 階
奈良市ボランティアインフォメーションセンター

TEL:0742-93-8435 FAX :0742-34-2336

URL:<http://www.city.nara.lg.jp>

(奈良市ホームページのアドレスが変わりました)

MAIL:kyoudousuishin@city.nara.lg.jp

開館時間:9:00~21:00(平日及び土曜日)

9:00~17:00(日曜日及び休日)

休館日:年末年始